

一般質問

・環境保全センターについて



水野克尚

問

牧之原市御前崎市広域施設組合において環境保全センターで一般廃棄物の処理を行っています。この焼却施設は平成4年に完成し、平成12年から13年にかけてダイオキシンの対策工事を実施し現在に至っています。施設は大分時間が経過しており標準的な耐用年数は過ぎています。年2億円をかけ維持修繕をして現在に至っていると聞いています。

答 古い施設のため公害に対しどのようなことが発生しているのか、市民の皆さんも疑問を持っています。公害発生の現状における健康被害、環境被害、農業への被害、水産業への被害について市長に伺う。また、風評被害があるのかも併せて伺う

問 公害対策については、関係法令に基づき、焼却施設からの排ガス及び排水、並びにその周辺の大気、土壌、水質について、定期的に環境測定を実施しています。数値は、いずれも基準値以下

です。当然、健康被害などの報告、風評被害の報告なども一切受けていません。

問

年数の経った今の施設でも影響がないのなら、新しい施設は排出基準値も低いので公害の発生はさらに減少すると思うが市長の考えは

答

新しい施設でも基準値以下で運転される認識です。

問

今の施設で補修対策を行った場合、令和8年まで使用できる。対策費は10億円と見込まれているが、いつまで運転するのか

答

令和8年まで2億円がずつとかかるのではありません。補修費をかければ年間7千万円ほどで推移できると言っています。令和8年以降10年延ばすと2億円補修費をかければ使える考えもあります。ここで、後の候補地のことを考えていません。

一般質問

・浜岡原発の津波対策について



清水澄夫

問

津波の圧力と威力は我々の想像する以上で襲ってくる。頑丈に作ってあるように思われる防波壁だが、非常に危険だ。危険な原発は再稼働させない、これが国民、住民の気持ちです。市長の考えを伺う

答

中部電力(株)が行っている安全性向上対策工事は、現在、原子力規制委員会で、新規制基準の適合性審査を受けています。津波対策についても適合性審査中であり、審査の結果を注視していきます。

問

津波は海水だけでなく、砂や石を巻き込んで襲来する。その破壊力は数十倍、数百倍と言われる。

また、津波は当たった時防波壁は壊れなくても、それを乗り越えた海水は引き波の時、根元を洗う洗掘作用で防波壁を破壊させる恐れがある。大地震発生時は極めて危険だ。市長の考えを伺う

答

それなりの強度を持った防波壁です。市民の生命財産を守るのが市長の役目。安全第一を考えています。

問

御前崎市消防署は海拔12mです。巨大地震が発生した場合の対応策は

答

国、県の想定では津波浸水区域外とされています。引き続き対策に十分配慮していきます。



中部電力㈱浜岡原子力発電所